



コートジボワールの子どもたちのためにと、体育館シューズを寄せる卒業生ら—各務原市那加東亜町、各務原西高校

各務原西高

コートジボワールの子どもも助けたい  
体育館シューズ送付へ

生徒会 卒業生から200足集める

高校の卒業式が行われた1日、各務原市那加東亜町の各務原西高校の生徒会が、アフリカ西部のコートジボワール

カの子どもたちを支援しようと、使わなくなった

0足を卒業生から集めた。

生徒会は本年度、義援金を集めるなど東日本大震災の復興支援に取り組んできたが、ボランティア活動を国外にも広げたいと企画。集めたシューズは、岐阜市のNPO法人「ぎふ・コートジボワール」を通じて現地へ届けられる。

この日は1、2年の生徒会役員ら7人の呼び掛けに、学びやを巣立つ卒業生から約200足が集まった。卒業生の井上千明さん(18)は「できることをやって、少しでも人のためになれば」と話していた。(井上愛)

卒業

各務原西高 使用した体育館シューズ寄贈



体育館シューズを回収箱に入れる卒業生—各務原市の各務原西高校で

コートジボワールへ

多くの公立高校で卒業式があった1日、各務原市の各務原西高校生徒会は、不要になった体育館シューズを卒業生から回収した。NPO法人を通じてアフリカ西部のコートジボワールに送って役立てる。

体育館シューズは使用頻度が低く、三年間使用しても傷みや汚れはあまりない。「私たちができることは少ないが、せめてけがをしないよう、素足の子どもたちに履いてもらえれば」と、生徒会長の神谷悠乃さん(二年)は話す。

卒業生は式の後、次々と回収箱にシューズを入れていった。京都市の大学に進学する矢島雄志さん(心)は「家に置いておくより、現地の人に使うてもらえるならありがたい」と話していた。

体育館シューズは、途上国支援や交流に取り組むNPO法人「ぎふ・コートジボワール」を通じて、現地に届けられる。(多園尚樹)